

平成 28 年 6 月吉日

平成 28 年度 青森認知運動療法勉強会 特別研修会のご案内

青森認知運動療法勉強会
代表 太田 康介

謹啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、当勉強会では日本認知神経リハビリテーション学会理事であります本田 慎一郎氏をお招きして特別研修会を開催する運びとなりました。臨床では、高次脳機能障害の影響で運動機能の回復が阻害されたり、生活行為に結びつかない症例を経験することがあります。今回は、「高次脳機能障害を伴う患者の病態解釈と治療展開～患者をより深く理解するために～」をテーマに症例を提示していただき、実際にどのように評価や治療を行っているのかを中心にご講義いただきます。

お忙しい時期とは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

謹白

記

- 主 催 : 青森認知運動療法勉強会
日 時 : 平成 28 年 8 月 28 日 (日) 10:00～16:30 (9:30 受付開始)
場 所 : 男女共同参画プラザ カダール (青森市新町 1 丁目 3-7 アウガ 5F 研修室)
講 師 : 本田 慎一郎 氏 ・滋賀県 守山市民病院 作業療法士
・日本認知神経リハビリテーション学会 理事
- テーマ : 「高次脳機能障害を伴う患者の病態解釈と治療展開～患者をより深く理解するために～」
対 象 : リハビリテーション従事者 (PT・OT・ST など)
定 員 : 80 名 (先着順)
受講料 : 日本認知神経リハビリテーション学会 【会員】2,000 円
【非会員】3,000 円
- 懇親会 : 【日時】8 月 27 日 (土) 19:00～
【場所】青森市中心街
【会費】4,500 円を予定
- 申 込 : 青森認知運動療法勉強会ホームページ (<http://cteapple.web.wox.cc>) の申し込みフォームに必要事項を入力して送信して下さい。お申し込み完了後、メールにてお知らせいたします。3 日以内に返信メールが届かない場合は、下記のお問い合わせ先までメールでお知らせ下さい。
尚、お申し込みの際に必要なメールアドレスには、「@docomo.ne.jp」等の携帯電話ドメイン、「@hotmail.co.jp」はご使用できませんのでご了承ください。
- 締 切 : 定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

以上

<お問い合わせ> 青森認知運動療法勉強会 太田 康介
所 属 : 介護老人保健施設ハートランド リハビリテーション科
住 所 : 〒034-0041 青森県十和田市大字相坂字高清水 78-450
電 話 : 0176-25-0122
メール : cteapple2016@gmail.com (=を@に変更)

平成 28 年度 青森認知運動療法勉強会 特別研修会 スケジュール（予定）

09:30～10:00 受付

10:00～10:50 総論：認知神経リハビリテーションとは

11:00～12:00 健側（非麻痺側）は健側にあらず

～非麻痺側の異常性と高次機能障害が内在していた症例～

症例① 陳旧性右片麻痺（50 歳代男性）

転倒により麻痺側の右大腿骨を骨折。当初は骨折に伴う関節可動域の改善に対する介入を行う。しかし、介入に伴い足関節の内反・底屈の痙性を制御しうることを症例自身が自覚していく。それを契機に、麻痺側下肢の運動麻痺に対する改善を視野に入れた介入へ移行していく。結果、約 8 年間常時短下肢装具の装着を余儀なくされていた症例が、一部装着不要の時間帯ができたという提示。

12:00～13:00 休憩

13:00～14:00 失語症に対する介入から見えてきたこと

症例② 感覚性失語症例（90 歳代男性）

失語症を中核とした症例を担当し失語症を中心に介入した。この症例では、どんな言語治療をしたかではなく、絵カードなどの視覚情報は、「単に見るのではなく、言語と注意によって読み解く必要がある」ことが見えてきた。

興味深いいくつかの点を紹介する。

14:10～15:10 失行症に対する認知神経リハビリテーションの考え方と訓練の骨格

～絵カード（写真）を用いた訓練展開の一部を紹介～

15:15～16:15 見つめるといことが困難な症例

症例③ 左半球損傷（80 歳代男性）

重度感覚性失語症を伴う、右半側空間無視と右側身体無視傾向および失行症など重複した高次脳機能障害を呈した症例。ジャーゴン失語が強く基本的に目が合いにくく、こちらの訓練で提示したい対象を注視することができず通常の認知的介入がまったくできない。そのような症例にどう対峙していったかという症例の提示。

16:15～16:30 質疑応答

※症例は変更する場合がありますのでご了承ください。